

校区の先人の努力に学ぶ ～農業講話・農業体験をととして～

10月20日（金）に、昭和地区で農業を営んでおられる、ファームたなべ代表の田辺正宣さんを講師にお招きし、本校の1, 2年生を対象に農業講話をしていただきました。講話では、「人並みならば人並み 人並み外れにゃ外れぬ」という「農聖松田喜一氏」の言葉を引用し、ご自身の農業経営と重ねながら「人並み以上に努力しないと、人並み以上のことは成し遂げら



れない」と力説されました。また、農園の台風による壊滅的な被害から再起を果たされたときのことを振り返り、「人は苦難の中では磨かれるが、安逸の中では墮落していく」という厳しい言葉も残されました。生徒達も郡築・昭和の農業



の素晴らしさを感じていました。最後に、2年生の平田陽菜乃さんが、立派な謝辞を述べてくれました。



10月26日（木）には、1年生において農業体験学習を実施しました。1日だけの体験ではありましたが、生徒達は、作物を育てることの苦労や喜びの一端に触れることが出来ました。生徒達を快く受け入れ、作業をさせてくださった農家の皆様方、本当にありがとうございました。

本校校区は言わずと知れた「干拓地」です。先人が命がけで堤防を築き、多くの困難を乗り越え開墾を成し遂げられたおかげで、今私たちはこの土地で学び、おいしい農作物をいただくことができます。そのような校区で生まれ育った七中生には、この開拓の精神を受け継ぎ、未来につなげる義務があると思います。そのような意味でも、今回、講話や体験活動を通して、作物に愛情を持って接しておられる農家の皆さん方の思いに触れ、学ぶことができたことは、ふるさとに誇りを持つ大きなきっかけとなる貴重な経験であったと思います。



本校の生徒達は、幼い頃から地域の皆さんの働く後ろ姿を見て育っています。これは、どんないい話を聞かせてあげるよりも尊い健全な勤労教育と言えます。働くことの尊さを身をもって示される地域の大人の姿から、働くことの苦労や、やりがいなどを感じ取りながら育ってきた本校の生徒達は、本当に幸せな環境で過ごしていると思います。

「苦難を乗り越え堤防を築いた古城弥次朗」「開墾に尽力した杉谷つも」「近代農法を広く伝えた松田喜一」 多くの先人の思いを受け継ぎ、何事にもチャレンジすることのできる七中生であってほしいと思います。

